九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[2_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 : 2(1)

https://doi.org/10.15017/19459

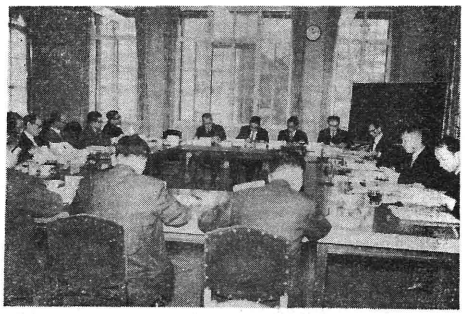
出版情報：図書館情報. 2 (1), pp.1-6, 1966-01-15. 九州大学附属図書館
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館月報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin Vol. 2, No. 1 Jan. 1966

大学図書館視察委員による実地視察の概要



前号で紹介の視察委員による実地視察は，本学では，九州地区の福岡大学，西南学院大学に続いて，さる12月1日（水）に実施された。来学の視察委員は，東京大学教授（薬学部)附属図書館長伊藤四十二氏，東京大学教授(工学部）吉武泰水氏，日本大学教授(法学部)名誉図書館長斉藤敏氏，玉川大学図書館長高井望氏の4視察委員，文部省側からは，視察委員に同行して井上情報図書館課課長補佐が来学された。本学事務局第1会議室を会場に，10時から午後3時までの間，附属図書館から提出した詳細な資料をもとに本学図書館の実態の紹介および視察委員側の問題点の把握のための質疑応答の形で行なわれた。この会合に本学からは，遠城寺学長をはじめ事務局側管理首脳部，附属図書館長，分館長，附属図書館商議委員，図書館関係者が出席した。九大の図書館商議委員各位からも各部局図書館(室)の当面する諸問題について意見が開陳され，視察委員側に対して要望が述べられた。

将来の改善への勧告は，後日文書で大学当局に回付される予定であるが，当日視察委員から概評として示唆のあった改善事項は次のとおりである。

(1) 全学総合目録の早急な整備 ただし，これに要する多額の経費を考えるとき，政府でもこれが整備のための予算化を研究する必要がある。**(2) 全学図書資料の相互利用の改善** 部局図書室所蔵の図書資料の全学的利用については，各部局ともよく研究・改善されている点は喜ばしいが，今後一層研究を進める必要がある。そのために各部局の利用規則を漸次統一させることが望ましい。**(3) 図書系職員の全学的調整** 学科新設に際しては，事務系職員の定員は配当されても，図書系職員の増員が少しも考慮されないという矛盾を全学的な学内調整の方法でいくぶんでも是正することが望ましい。また，職員の充実に当っては，まず中央図書館と分館を優先させる必要がある。**(4) 中央図書館における参考業務の強化** 中央図書館は，人員不足の際ではあろうが，中央館としての立場上，参考業務の一層の強化に力を注ぐ必要がある。**(5) 中央図書館新館の早急な建設** 全学的な視野に立った理想的な新館の早急な実現が望ましい。なお，新館建設に関して吉武委員から，設計上，考慮を要する諸点について示唆があった。最後に中央図書館の現場視察があり，午後4時に全日程を終了した。

◆ 会　議

＜中央図書館＞

学術情報委員会準備委員会第1（参考文献）小委員会会議（第1回）＜とき：昭和40年12月10日(金)午後1時半～4時　ところ：本学事務局第一会議室＞　第1小委員会所属の委員10名，附属図書館長，中央図書館事務部の整理・閲覧各課長および関係掛長，部局の図書掛長ら計21名が出席した。

本学の各部局では，外国雑誌や洋書参考図書等，多額の経費を必要とする図書資料の収集・購入計画においては，各部局内ないしは他部局間との何らの相談や相互の調整なく，選択・購入が行なわれる事実が多く，その結果生ずる不必要な図書費は看過できないまでに膨大化している。本小委員会は，こうした事態に対処して，各部局内および各部局間相互の協力のもとに，全学的視野にもとづく図書資料の収集・整備計画を推進することが目的である。こうした不合理を是正することにより，節約できる多額の経費を，教育・研究上，より必要なこの種図書資料の購入費に振り向けることができ，また一方，大学図書館の近代化の線に沿った有効適切な図書の運用をも可能とすることができよう。この主旨に沿って，本第1回会議では，外国雑誌と洋書参考図書の合理的な整備計画の方法について箇別に審議が行なわれた。

まず，外国雑誌については，現状の認識と問題提起のために，中央図書館側で調査した1966年版重複購入予約雑誌名および重複部数ならびに各部局別重複部数（下記別表参照）を本小委員会に提示した。審議の結果，今後の作業方針としては，まず各部局内での重複購入をできるだけ少なくするための相互の調整を各部局から選出の委員に委任し，さらに各部局間の重複についても，専門分野の教官による連絡会議を開いて相互に調整する必要が認識された。また，中央図書館が購入する外国雑誌については，全学的な視野に立った購入の基本方針を確立して，収集をはかるべきことが了承された。

次に洋書参考図書については，中央図書館の購入・収書計画をよりいっそう体系的に整備する必要が指摘され，また，現在の洋書参考図書室（15坪，備付冊数約2千冊）の整備の急務が認識された。ちなみに中央図書館における参考図書は，和洋合わせて約1万冊にのぼるが，うち洋書は約4千冊である。また，部局の現有参考図書は，和洋約1万冊で，うち洋書は約3千冊と推定されるが，各部局内または各部局間の重複購入は増加の傾向にある。したがって，今後の作業方針としては，まず中央図書館所蔵の洋書参考図書の現有リストを早急に作成して各部局に提示し，各部局ごとに，所蔵の洋書参考図書リストとを照査した上で，中央図書館として必要な洋書参考図書の購入，整備計画を推進していくことになった。

1966年版外国雑誌部局別予約購入状況一覧表

種別／部局名	購入点数	購入部数	重複部数	種別／部局名	購入点数	購入部数	重複部数
文学部	210点	212部	2部	温泉治療学研究所	52点	52部	0部
教育学部	128	128	0	応用力学研究所	99	109	10
法学部	161	161	0	産業労働研究所	6	6	0
経済学部	115	115	0	生産科学研究所	67	67	0
理学部	511	514	3*	附属病院	234	266	32
医学部	376	409	33	附属農場	1	1	0
薬学部	45	46	1	附属演習林	10	10	0
工学部	855	977	122	附属図書館	75	86	11*
農学部	400	455	55	工業教員養成所	10	10	0
教養部	191	193	2				
総計　総購入点数 3,304　総購入部数 3,509　総重複部数 271							

＊備考：理学部の3部のうち，2部は遠隔の地区にある天草臨海実験所で購入している。
図書館の11部は部局配布用として購入の Unesco Courierである。

＜医学部分館＞

九大医学図書館図書委員会(第42回) ＜とき：昭和40年11月30日 ところ：医学部分館＞ 報告事項として，①九州地区における医学図書館員の研究集会(41年度)の実施②文部省による大学図書館実地視察の実施③世界医学図書，雑誌展の開催などについて報告があった。議題は，(1)九州歯大からの要請による重複図書の移管(2)予算節減率の減少による実質予算の増加，(3)Current contents の複写，(4)Chemisches Zentralblatt の回覧(5)薬学部への長期貸出雑誌の移管，の5件について審議され，(5)以外は可決承認された。

世界医学図書・雑誌展開かる

日本医学図書館協会，九大医学図書館，出版文化国際交流会の共催のもとに，昭和40年12月7日から9日まで，医学部分館で開催された。参加出陳国は米国をはじめ23か国，出品点数は約3000点にのぼった。この展示会は全世界の医学書出版界の総力的な出品であり，今までにない盛大な規模の図書展といわれた。参観者はやや低調で約200名程度であった。

資料紹介

アメリカの議会図書館 (U.S. Library of Congress) の目録について

中央図書館における所蔵状況（1965年12月末現在）は下記のとおりである。

(1) A catalog of books represented by Library of Congress printed cards, issued to July 31, 1942. New York, Pageant Books, 1958-60. 167 v.

(2) —— Cards issued Aug. 1, 1942-Dec. 31, 1947. Paterson, N.J., Pageant Books, 1960. 42 v.

(3) Author catalog; a cumulative list of works represented by Library of Congress printed cards, 1948-1952. Paterson, N.J., Pageant Books, 1960. 24 v.

(4) The National union catalog; a cumulative author list representing Library of Congress printed cards and titles reported by other American libraries. 1953-1957. Ann Arbor, J. W. Edwards, 1958. 28v.

(5) —— 1958-1962. New York, Rowman and Littlefield, 1963. 54 v.

Subject

(6) Library of Congress catalog; a cumulative list of works, represented by Library of Congress printed cards. Books: Subjects, 1950-1954. Ann Arbor, J. W. Edwards, 1955. 20 v.

(7) —— 1955-1959. Paterson, N.J., Pageant Books, 1960. 22 v.

はじめ，米国議会図書館は，名称の示すとおり，アメリカ議会および官公庁へのサービス機関として，1800年（寛政12年）に設置されたものであるが，その本格的な図書館活動は，19世紀後半にはいって始まったということができる。すなわち，1870年，アメリカ国内出版物の版権登録の委任による納本制度の実施と，個人蔵書および国外資料の積極的収集とによって，蔵書は急激に増加した。議会図書館年次報告 (Annual report of the Librarian of Congress) 1964年版によれば，全蔵書数は4,352万点以上と報ぜられ，質量ともに世界最大の図書館といわれるまでに成長をとげたのである。また，議会図書館は，1898年から始めた印刷カードの頒布事業によって，アメリカ国内だけでなく，国際的な書誌センターとしての性格が，すでに形づくられていた。

上記目録（1～5）の作成は，印刷カードの頒布当時から切望されていたが，アメリカの図

書館や世界の各研究機関からの書冊式目録 (Catalog in book form) 刊行への強い要望により，Association of Research Libraries の協力を得て，ようやく 1942 年編さんに着手，1946年，目録(1)167冊が発行され，以後現在まで引き続き刊行されている。書名の変遷については，すでにお気づきのことと思うが，これは議会図書館の書誌編さん計画の拡充・発展を反映しているのである。とくに，1953-1957 年版以降の National union catalog は，印刷カード以外に，アメリカ (North America) の約 750 館におよぶ図書館からの報告のものを含んでおり，また，1958-1962 年版は，35,000 ページ，54冊におよぶ膨大なものであって，議会図書館の目録編さん事業としては最大の計画といわれている。この総合目録を駆使することによって，同図書館の書誌サービス・センターとしての役割りはますます重要なものとなるであろう。

この目録に収められた資料は，図書，パンフレット，地図，定期刊行物，その他逐次刊行物類であって，また，全世界において刊行されるあらゆる国語——アラビア，シリル，ギリシャ，ゲール，ヘブライ，インド文字やローマ字および中国，日本，韓国語——によって書かれた資料を含んでいる。

次に，記入および排列などについて簡単に紹介したい。記入は，A. L. A. 目録規則と L. C. 記述目録法によった基本記入，必要な副出記入と数多くの参照によって編成され，基本記入には，詳細にして正確なインフォーメイション（完全な著者名，生没年，完全書名，版次，出版事項，対照事項，双書名，内容注記，一般注記などが含まれている）のほか，トレーシング（件名・副出）L. C. の請求記号，D.C. の分類番号，カード番号などが記載されている。排列は著者名または書名のＡＢＣ順によっており，また印刷も鮮明であって，一般利用者にとっては，検索に非常に便利な使いやすい総合目録といえる。

なお，この目録に収録されていない医学とその関連主題の資料は，National Library of Medicine catalog を，また，印刷カードに登載されていない逐次刊行物類は，議会図書館刊行の New serial titles をそれぞれ参照されたい。

最近，大学図書館においては，レファレンス・サービスの一環として書誌サービス，ことに国際的サービスが重要分野となってきているが，このサービスの基盤となるものは，世界各国において刊行される書誌，総合目録，索引，抄録などの書誌的ツール (Bibliographic tool) である。ここに紹介した米国議会図書館の総合目録は，本館備付の British Museum や Bibliothèque Nationale, Paris の蔵書目録とともに，書誌的情報を提供するものとして，研究者および図書館関係者，とくにレファレンサーや目録作業に従事するものにとって必要欠くことのできないものであろう。

学内図書館めぐり

中央図書館の沿革 (3)　　昭和期を迎えた図書館 2

図書館が大正14年６月から本格的に活動を開始して，わずか数年たって，早くも増築問題が生じた。当初の階上閲覧室の座席数は 96 席であったが，まもなく模様替によって132席になった。しかし，学生の増募につれて，閲覧人員も累年増加して，収容できないほど狭くなったのである。昭和３年１月の記録によると，学生数は２千人を越え，図書館利用者は１日最高 212 人，２月中は１日平均184 人と，閲覧室はいつも満員の状態となった。このころ，大学図書館の閲覧者収容定員（座席数）は，学生数の 10 %が標準とされていた。（なお，現在その率は 20～30%に更新されている。）このことから，事務室を増築して事務掛・司書掛を同室に配置し，事務の統一と能率化をはかることが，第６回附属図書館商議委員会（昭和３年１月27日開催）に提案されたわけである。商議委員会で慎重に審議された結果，技術上の事項は建築課にはかり，将来書庫の増築のことも考慮に入れ，適切な設計をして，昭和４年度要求予算提出の件が決議された。幸に増築予算が通過し，16,560円で，現在使用中の36坪の事務室と，同じ広さの半地下室の増築が実現したのである。

次に，かねてから学生の希望や要求等が調査されていたが，館内に便所を設置すること，ならびに新聞閲覧室を拡張することの要求が最も多かった。今は想像もできないが，午後９時まで開館する図書館を利用し，よく勉強する学生には全く気の毒な話で，雨降り日には，近くの工学部便所まで走って往復していたという笑えない事実がある。こういう事情から，増築のための昭和８年度要求予算が計上された。すなわち，閲覧者の不便を除くために，当時の新聞閲覧

室を水洗式便所に改造し，新聞閲覧室は新たに北側に新営することになった。

過去を振り返ると，当時としては九大図書館は，その機能を十分に発揮することができるように，箱崎キャンパスの適切な位置に設置されたといえる。そして総合的教養の場としての役割を果たしていたことも事実であるといえよう。しかし，40年前のことではあるが，大学図書館の建築計画としては，当然ともいえる諸条件が確保されていないことや，学術研究の進歩と大学教育の発展，学生定員の増加にともない，総合大学の規模が拡大されるであろうことなどは，全く考慮されていない。従って学生数，教官数，累年増加冊数や研究・教育活動に応じて流動的なものでなく，固定的なものであった。新館竣（しゅん）工後数年で，２回も増築することなどは，あまり例のないことと思われる。立地条件から，増築された事務室と閲覧室との連絡には書庫の１階を通り抜けねばならず，管理運営上まことに使いにくい大学図書館である。

今後新らしく大学図書館の建築計画がたてられるとすれば，昭和40年３月，大学基準等研究協議会会長から文部大臣に「大学設置基準の改善等について」の答申があったことや，昭和40年２月に，図書館特別部会主査から大学基準等研究協議会会長に「大学図書館設置基準要項の作成について」の報告があったことが一つの拠りどころとなるであろう。さらに，学校施設基準規格調査会大学図書館施設小委員会ならびに昭和40年11月から引き継がれた大学図書館施設研究会議で検討されている基準的な項目が昭和41年３月頃には決定するので，おのずからその規模も見通しがつくことと思われる。学生の増募，学部・学科・講座の増設等によって，今後大学の規模や機構もますます拡張されることは明らかであるから，この点を十分考慮に入れて，大学図書館の新館建築計画はたてられるべきである。

九州大学文学部附属　九州文化史研究施設について（続）

旧九州文化史研究所が文部省に独立の研究機関として要求した３部門のうち，対外交渉史部門が文学部附属研究施設として正式に認められることに内定したのは，昭和40年正月早々であった。かくして，４月１日から新らしい理想と機構の下に本研究施設が発足したのである。

初代施設長として対外交渉史専門の文学部箭内健次教授が就任，専任助教授として藩政史研究の権威，藤野保氏を迎え，現在専属の職員として，この外に助手１名，事務職員３名が勤務している。運営委員長を文学部長，参与を法学部長・経済学部長がつとめ，併任教官16名が文・法・経済・教育・教養の５部局から出ており，また，他大学の教官も研究員として参加し研究活動を行なっている。

その研究の目的とするところは，九州が日本文化発展の上に果たした役割りの重要性と独自性とにかんがみ，九州文化の史的研究を総合的に行ない，もって日本文化の解明とその進歩発展に寄与すること，　とうたっている。 施設の行なう事業としては史料の収集・整理保存・複写，研究会の開催，紀要の発行，所蔵古文書目録の作成その他となっている。現在この計画に従って，年度内には紀要11号，古文書目録６号等が完成の予定である。西日本史学会，九州史学会その他，折にふれて史料展観も行なった。最近とみに各地大学史学科の修学旅行の見学場所となった観がある。

現在施設事務室は，九州大学浜地区文学部の屋上別階にあり，博多湾を一望のもとに眺観する絶景の場所で，12月３日三笠宮殿下のご来臨の節，「日本一」と折紙をつけられたほどであるが，その書庫たるや，九州大学本部地区の西端と北端４か所に分散し，史料閲覧客の来訪に接するや，室員の不便苦労は沙汰（さた）の限りである。一日も早く仮住居を解消して，一つの建物の中にまとまり，研究と事務の能率が大いに増進され，名実ともに立派な研究所として発展することを願ってやまない。

学内マイク

1. 閲覧課参考掛・情報資料掛事務室の移転

昨年11月20日，整理課事務室から，図書館正面玄関に近い複写室に移転を完了し，直ちに業務を開始しています。特に文献複写の受付場所が従来と変りましたので，複写申込の方は，下図を参照して，ご来館ください。従来と大きく変った点は，下記に説明の洋書参考図書室の機能拡充と相まって，特に研究者に対する参考図書の利用と複写の便宜を計るために，中央図書館の正面玄関からの出入を容易にしたことです。

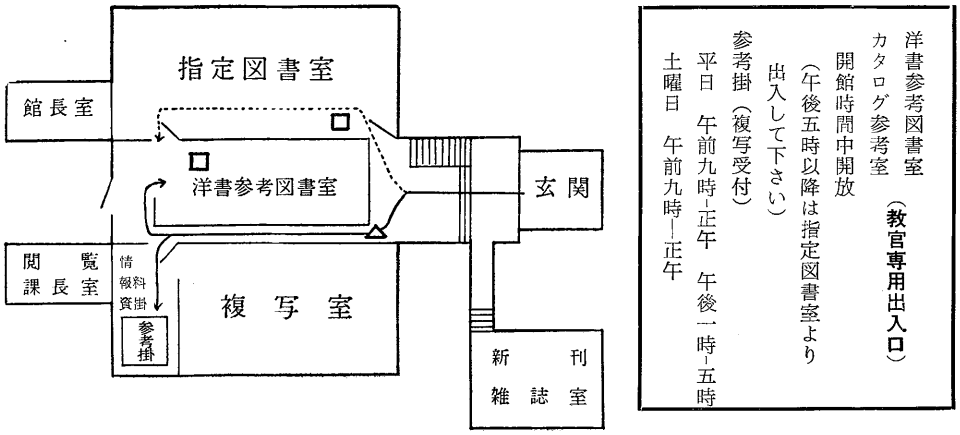
2. 洋書参考図書室の機能の拡充

上記参考掛・情報資料掛の移転にともない，洋書参考図書室に常時掛員を配置し，参考事務の仕事に専任させるとともに，参考掛の管理する参考図書の整備にとりかかることになりました。現代の大学図書館では，特に参考図書の充実が強く叫ばれています。当館の現状は，着々と前進をしてはいますが，まだ満足できる状態ではありません。

12月1日に来学の大学図書館視察委員から指摘された「参考業務の強化」は，当館としても従来から認識されていたことではありますが，参考掛の機能の拡充に見合う職員の充実は目下の急務となっています。

現状では，掛長のほか非常勤の女子職員が1名だけで，掛長は増大する文献複写業務に追われ，電話，来館，通信等による一部の参考業務を行なっているに過ぎません。本格的な参考業務を充実するための一策として，現在の参考掛を，参考掛と複写掛の2掛に分けて，人員の充実を計ることも一案として考えられていますが，定員・予算の制約が大きな隘（あい）路となっているのが現状であります。

洋書参考図書室の一部は，カタログ参考室を兼ね，自然科学関係の学内総合目録カードの一部を配置し，教官・学生の利用に供しています。上述のとおり，勤務時間中は掛員が常時在室していますので，利用方法等についてわからない点があれば，掛員にお尋ねください。



○○ あとがき ○○

新春とともに，巻号も改り，編集委員一同，新たな感懐をもって，本紙の内容の充実・刷新に微力を尽くしたいと念願していますが，学内・学外の読者諸氏，とくに学内の図書館利用の立場にある教官各位・学生諸君ならびに図書系職員各位から，本紙の編集方針，内容について忌憚（たん）のないご意見・ご批判を期待しています。（文書による受付事務は，中央図書館庶務掛（電話 学内内線 5260）としますが，図書館の職員にお渡し下さっても結構です。電話による場合は内線5269にお願いします。）

九州大学附属図書館月報「**図書館情報**」　Vol. 2, No. 1（通巻5号）
1966年1月15日発行・発行人　船越　惣兵衛
発行所　九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎 3576・電話代表 ㊹ 1101 内線 5255